



旅行期間 5泊7日

2025年6月1日(日)~7日(土)

対象 ▶ 次世代を担う幼児教育者・保育者ほか、園庭ビオトープに関心のある方どなたでも
滞在都市 ▶ 南ドイツのビールで名高いバイエルン州ミュンヘン

【旅行企画・実施】(株)パーパスジャパン 【視察企画・協力】(公財)日本生態系協会
【後援】(社福)日本保育協会、(公社)全国私立保育連盟、(NPO法人)全国認定こども園協会、日本ビオトープ管理士会
【協力】(株)スマートエデュケーション

1. 実施概要

ツアー名	子どもの感性・思いやり・自立心を育む 自然ゆたかなドイツの園づくりツアー2025
旅行期間	2025年6月1日(日)～7日(土) 5泊7日間
滞在都市	南ドイツ最大の都市ミュンヘンに滞在
訪問施設	ノッチング公立幼稚園 自然幼稚園ボーゲンハウゼン バイエルン州立幼年期教育研究所 クラインガルテン協会 NW18 自然の子 聖ゲオルグ保育所・幼稚園 森の幼稚園ヴァルディンゼル 聖クイリヌス保育所・幼稚園 ミュンヘン空港会社
対象	保育所・認定こども園・幼稚園関係者、ビオトープ管理士・こども環境管理士、研究者、企業他園庭ビオトープに関心のある幼児教育・保育の次世代を担う方々等
募集人員	17名(最少催行人員12名)
募集期間	2024年12月20日から2025年2月20日
参加費	90万円 ※往復エコノミークラス渡航運賃の他、2名1室利用の場合 ※宿泊料金、朝・昼・夕食、専用車、通訳、添乗員、関連資料等の費用を含みます ※空港税、出国税・燃油特別付加運賃が別途かかります
旅行企画・実施	(株)パーパスジャパン(観光庁長官登録旅行業第1574号、海外ツアーオペレーター協会265号)
視察企画・協力	(公財)日本生態系協会
後援	(社福)日本保育協会、(公社)全国私立保育連盟、(NPO法人)全国認定こども園協会、日本ビオトープ管理士会
協力	(株)スマートエデュケーション
同行者	日本生態系協会職員(ツアーリーダー及び通訳)ほか、添乗員(日本より)が同行します



2. 趣旨

心とからだから急速に成長する乳幼児期は、子どもたちの豊かな感性、思いやりや協調性、自立心、創造力・思考力などを育む大切な時期です。「豊かな感性や思いやり、ものや命を大切に作る心」、そして様々な資質や能力は、花の香り、蜜の甘さ、野鳥の声、そよぐ風、土の感触、様々な生きものとの出会いなど、五感を通じて自然とふれあい、その美しさや不思議さを他者と共有することで発達します。自然豊かな「園庭ビオトープ」は、安心して毎日自然とふれあえる、子どもたちにとって最高の遊び場であり学びの場です。こうした園庭は、保護者の評価も大変高く、入園希望者の増加にもつながっています。

こうした動向を踏まえ、当協会では、「全国学校・園庭ビオトープコンクール」の実施や「こども環境管理士」・「ビオトープ管理士」認証資格などを通じて、自然とふれあえる保育の場づくりを後押ししています。

※ビオトープ：地域の野生の生きものが生息する空間を言います。私達の身近には、樹林や水辺、草地等様々な種類のビオトープが存在しています。そうしたビオトープを子どもたちのために園庭に取り入れたものが「園庭ビオトープ」です。

3. 日程概略

※訪問先の都合により、視察内容が変更になることがあります。

日次	月日曜	発着・滞在地	時刻	交通機関	スケジュール
1	6/1 (日)	東京 フランクフルト ミュンヘン	午前 夕刻	航空機	フランクフルト経由、ミュンヘン空港へ 【ミュンヘン空港付近泊】
2	6/2 (月)	ノッティング ミュンヘン	午前 午後 夕刻	専用車	■ノッティング公立幼稚園を見学 ■自然幼稚園ボーゲンハウゼンを見学 ミュンヘン市内自由行動 【ミュンヘン市内泊】
3	6/3 (火)	ミュンヘン	午前 午後	専用車	■ミュンヘン生態系教育センター内にてバイエルン州立幼年期教育研究所による講義 ■クラインガルテン協会 NW18 を見学 ミュンヘン市内ガイドツアー 【ミュンヘン市内泊】
4	6/4 (水)	ミュンヘン周辺	午前 午後 夕刻	専用車	■自然の子 聖ゲオルグ保育所・幼稚園を見学 ■森の幼稚園ヴァルディンゼルを見学 ミュンヘン市内自由行動 【ミュンヘン市内泊】
5	6/5 (木)	ミュンヘン テーゲルンゼー ミュンヘン空港 ミュンヘン空港付近	午前 午後 夕刻	専用車	陸路、テーゲルンゼーへ ■聖クイリヌス保育所・幼稚園を見学 陸路、ミュンヘン空港へ ■ミュンヘン空港及び周辺自然再生地を見学 【ミュンヘン空港付近泊】
6	6/6 (金)	ミュンヘン	午後	航空機	空路、帰国の途へ 【機内泊】
7	6/7 (土)	東京	午前		着後、解散

4. 企画団体（公益財団法人日本生態系協会）

日本生態系協会は、自然と歴史が共存する美しくにづくり・まちづくりを目指して活動するシンクタンクです。私たちの生存基盤である自然生態系を守り、経済、社会、文化のあり方について国内外の情報を広く集め、国際的な視点からも調査研究を進め、市民や議員、政府機関等に提案を行っています。また、『全国学校・園庭ビオトープコンクール』の実施、園庭ビオトープづくりやその活用など自然体験・環境学習の推進、国際シンポジウムや各種セミナーなどの開催、こども環境管理士およびビオトープ管理士の認証、書籍の発行など、多岐にわたる取り組みを行っています。著書に、『学校・園庭ビオトープ 考え方・つくり方・使い方』（講談社）、『環境教育がわかる事典』（柏書房）、『ビオトープネットワーク』（ぎょうせい）などがあります。

お問い合わせ先

171-0021 東京都豊島区西池袋 2-30-20 音羽ビル

TEL 03-5951-0244 FAX 03-5951-2974 <https://www.ecosys.or.jp/>

※ツアーのお申し込みは、下のアドレスにある「ツアー申込案内」をご覧ください。

<https://www.ecosys.or.jp/activities/event/>



5. 訪問先と見学内容

※写真はイメージです

今回のツアーでは、バイエルン州における、自然体験を目的とした園庭ビオトープ、森の幼稚園等を見学するほか、自然とのふれあいによる子どもへのプラスの効果や、それを促進する政府の方針、幼児教育・保育制度、園庭ビオトープの普及状況等の背景についても研修する予定です。

■ノッチング公立幼稚園（ノッチング）

この園は自治体が運営する施設です。園庭の広さは 1,520 m² で、2000 年に改修されました。園庭の計画づくりには、子どもたちが積極的に関わり、創造性あふれるアイデアをたくさん出しました。保育者と保護者が具体的なデザインを考え、近隣住民や園芸クラブが協力して形づくられました。子どもたちが一番ほしかった長い滑り台がある築山と谷の高低差は 4.5m あります。地域在来の植物が生える小川は子どもたちの大人気の場所です。子どもたちは、五感を使って自然の色や形、感触、香り、音、味などを確かめながら、外遊びを大いに楽しんでいます。こうした取り組みが認められ、自治体が管理費用を補助してくれるようになりました。



■自然幼稚園ボーゲンハウゼン（ミュンヘン）

この園は、保護者全員の協力によって成り立っている保護者主導の幼稚園です。ミュンヘンの中心から北東に約 5km と比較的都市域にあり、ボーゲンハウゼンの緑地の森を園庭として利用しています。自然教育の精神に基づき、子どもたちはこの森を遊びの拠点として、自然とふれあいながら四季の移り変わりを直に体験しています。この園では、敷地内の森のほかに、近くの森にも頻繁に出かけていきます。そのひとつにミュンヘン生態系教育センター(ÖBZ)があります。ミュンヘン環境センター協会とミュンヘン市民学校によって運営されているこの施設は、州公認の環境センターとして、自然や環境教育、持続可能な開発のための教育の場となっています。ÖBZの6.5ha敷地には、ビオトープや自然遊歩道などがあり、ユニークな野外学習の場を提供しています。



■バイエルン州立幼年期教育研究所（ミュンヘン）

バイエルン州政府労働・社会・家庭・統合省は、保育、障害者、高齢者、難民・移民、労働市場など、社会政策全般を取り扱っています。州の教育保育要綱である「バイエルン州教育保育計画（BEP: Bayerische Bildungs- und Erziehungsplan）」(2005年策定、現在第10版)の改訂に中心的な立場で関わるなど、教育や保育の政策立案のほか、国内外の機関などとの連携にも力を入れています。BEPでは、子どもの学ぶ権利を尊重し、多様性に配慮することを求めています。また、「乳幼児施設における環境教育・保育実践のための教育者・保育者向けハンドブック」を発行して、生物多様性、土、水などの自然生態系の要素のほか、気候、エネルギー、廃棄物との関わり方などを提案しています。

※バイエルン州立幼年期教育研究所の研修は、ミュンヘン生態系教育センター(ÖBZ)内の講義室で行い、研修後には、ミュンヘン生態系教育センターの所長より、センター内を案内していただく予定です。

■クラインガルテン協会 NW18 (ミュンヘン)

クラインガルテン(日本語で小さな庭の意)とは、庭のない市民に小区画の土地を賃借し庭づくりや野菜づくりの場を提供する場所のことです。クラインガルテンNW18は、平均250m²の面積の区画が122あります。ここでは、手入れの行き届いた芝生の庭は時代遅れとして、生物多様性のための庭づくりが主流です。例えば、有機肥料の使用、農薬・泥炭の不使用、昆虫や野鳥、小動物のための多様な生息地を創出するなど、利用者により生物多様性の回復につながる様々な取組がなされています。また、近隣の幼稚園に1区画を開放して、子どもたち自身の力で学びながら植物を育ててもらう「学びの庭」プロジェクトを実施しています。こうした取組が認められ、州の「花咲くバイエルン ナトゥアガーデン認証」の金賞を受賞しました。



■自然の子 聖ゲオルグ保育所・幼稚園 (ツォルネディング)

この園の園庭は、多くの野生の草花が咲く遊び場です。子どもたちが、体をいっぱい動かして遊べるよう、太い丸太やソリのできる丘もあります。そのほか、鳥の巣型のブランコや、ツリーハウス、小川や小さな池、虫宿などもあります。園庭の自然に魅せられて、ハリネズミやたくさんの鳥たち、ハチやチョウなど、多くの生きものがやってきます。こうした取組により、ユネスコのESD「緑豊かな遊び場賞」2010/2011を受賞しました。また、バイエルン州鳥類自然保護協会(LBV)の「エコキッズ」に認証されています。この園が地元の子どもたち、そして保護者に大人気であることに疑う余地はありません。



■森の幼稚園ヴァルディンゼル (モーザツハ)

ミュンヘンの東約25kmのモーザツハにあるこの森の幼稚園には、3歳から6歳までの約20名の子どもたちが通っています。この園では、「バイエルン州教育保育計画(BEP)」を参考に森の中での自由な遊びを実践しています。この園では、子どもたちは一年を通じて、どんな天気でも、森の中で遊びます。森の中には、登ったりバランスを取ったりできる丸太や切り株、家の代わりになる木、丘や谷があり、土、水辺、雪、枝や葉っぱ、草があります。大人が発明した材料や遊具を使わず、人工的な空間ではない森の中で、子どもたちは工夫を凝らした独自の遊びを創造します。森は、学び、成長したいという子どもたちの自然な欲求を満たしてくれます。

■聖クイリヌス保育所・幼稚園 (テーゲルン)

この園は、2008年に子どもたちの希望を取り入れて2,400 m²の園庭を自然体験のできる場所に改修しました。平坦な敷地を創造性豊かな三次元的な空間に変え、雨水を利用した小川や立体的な砂場、小高い山とその斜面に沿った長い滑り台、登れる壁、たき火ができる場所、トンネルなどもつくりました。また、地域在来の多様な植物が茂る草原も再現しました。園庭の様子は見違えるように華やかになり、たくさんの昆虫や野鳥などもやってくるようになりました。ドイツ政府の園庭の生物多様性を高めるプロジェクト「保育所幼稚園の園庭 一緒に多様性を発見しよう」の参加園であるこの園の園庭は、まさにプロジェクトの趣旨を体現したかのように、生きものの多様性と発見に満ちています。



■ミュンヘン空港会社 (ミュンヘン)

1992 年開港のミュンヘン国際空港の周辺地域は、元々エルディンガー・ムースという湿地帯でした。空港建設に際して、代償措置が計画段階から具体的に定められ、取組は今も続けられています。2 本の滑走路周囲の自然保護上重要な草地 658ha と空港に隣接する補償・代替地約 720ha における野鳥等の生息環境の回復維持のほか、個体数記録やモニタリング、マッピング等が行われています。ミュンヘン空港会社は、持続可能な社会をけん引する企業としてバイエルン州の野の花協定に締結し、2019 年より州の野の花咲く事業所に認定されています。滑走路周囲の野の花咲く草地は多くの昆虫のほか、ダイシャクシギ・タゲリ・ヒバリなどの野鳥のすみかとなっています。

6. 滞在予定地(ミュンヘン)



ビールの名産地として有名な南ドイツ最大の都市**ミュンヘン**。その歴史は古く、850 年前にさかのぼります。南ドイツに花開いたドイツ宮廷文化の中心地であるこのまちの魅力は、中世からの歴史的景観を保ちつつ、現代的な都会の要素が絶妙にマッチしていることです。旧市街には、黄金のマリア柱像が輝くマリエン広場を中心に観光スポットが点在しています。広場の正面にある堂々たる新市庁舎は、1881 年に建てられた新ゴシック様式の建築で、仕掛時計のある 100m の塔の内部は見学もできます。ドイツではその昔市庁舎でワイン取引が行われていたため、地下にセラーがありました。そうしたラーツケラー(市役所のセラー)の多くが、現在郷土料理を提供するレストランとして営業しています。ミュンヘン新市庁舎のラーツケラーもいつも地元の人々で賑わう人気のレストランとなっています。そのほか、ゴシック様式の建物内におもちゃ博物館がある旧市庁舎、玉ねぎ型の屋根が印象的なフラウエン教会、有名なビアホール、ホーフブロイハウス、塔から旧市街が一望できる聖ペーター教会、バイエルン国立歌劇場など、広場を囲む歴史的建造物は枚挙にいとまがないほどです。